



DxO Optics Pro v5.0.4 リリースノート (build 6610)

Windows:

V5.0.4 - v5.0.3bと比較しての、新機能、向上点、修正事項

- 新規サポート Nikon D3 (エリート版 DxO Optics Pro v5.0.4)
- キーボードショートカット追加

[プロジェクトを開く]	CTRL + O
DxO Optics Pro を [終了]	CTRL + Q
[プロジェクトの保存]	CTRL + S
[全てを選択する]	CTRL + A
[左に回転]	CTRL + L
[右に回転]	CTRL + R
[バーチャルコピー作成]	CTRL + I
[選択] タブ表示	F5
[補正] タブ表示	F6
[処理] タブ表示	F7
[確認] タブ表示	F8
次のタブ表示	CTRL + TAB
前のタブ表示	CTRL + SHIFT + TAB
[プレビュー枠の移動]	SPACE + マウス操作
すべての補正パレットを表示	SHIFT + F9
すべての補正パレットを非表示	F9
ランク付け	CTRL + (0, 1, 2, 3, 4, 5)
(これは拡張キーボード上の右端の数字キーを使うか、機能キー [Num LK] を有効にした場合のみ。)	

- [補正] タブで表示された画像上でカーソルを移動させると、右上 ([即実行処理] ボタンのすぐ左) に、カーソル・ポインタのピクセルに対応する RGB 値が表示されるようになった。
- [ファイル] メニューの [最近閉じたプロジェクト] コマンドを開くと、最近使ったプロジェクトが表示されるようになった。
- [キーストーン/水平] 補正パレットの [水平] 補正ツールの角度が 100 分の 1 レベルで調整できるようになった。
- アプリケーションの不安定な動作やクラッシュにつながる多くの問題を解決。
- 補正のための情報が不足していることを示す黄色の三角の警告マークの表示の問題を解決。
- 他のアプリケーションとの互換性の問題の原因となる、処理画像の EXIF 情報がとても大きくなってしまふバグを解決。
- スタックされた画像に対する補正の適用に関するいくつかのバグを解決。
- [選択] タブで、画像をドラッグアンドドロップで選択する場合とソート機能を使う場合のいくつかのバグを解決。
- [表示されない補正項目] の表示内容の重複等のバグを解決。
- ランク付けが正しく保存されないバグを解決。
- DxO モジュールインストーラの機能向上。DxO モジュールインストーラを使ってダウンロードした場合のモジュールファイルが壊れてしまうバグを解決。
- [ヘルプ] メニューの [アップデートの確認をする] コマンドの動作向上。
- Adobe Lightroom 用プラグインでクラッシュが起きるバグのいくつかを解決。
- 日本語インターフェイスのラベル翻訳を修正。

- [ディテール] パレットのスライダーが正しく機能していなかったバグを解決。
- カスタム ICC プロファイルが選択されている場合にバッチ処理の際にエラーが出るバグを解決。

V5.0.3b - v5.0.3と比較しての新機能

- Nikon D300 のサポート

V5.0.3 - v5.0.2と比較しての改善点

- 起動時のクラッシュを解決。以下参照。
 - スプラッシュスクリーン上で、搭載補正機能リストの表示中のクラッシュ。
 - DirectX がサポートされていない (Dx0 Optics Pro がグラフィックカードを使えない) 場合のクラッシュ。
- 2D カード (例: Matrox 2D) のサポート追加。
- Dx0 FilmPack がインストールされていなくても、ICC プロファイルのインポートが可能。
- Dx0 Lighting を使用中、場合によって [補正画像表示エラー] メッセージが出るバグを解決。
- カスタム ICC プロファイルを適用しても、バッチ処理が可能。
- 大量の画像をプロジェクトウインドウに取り込んだ場合のバグを解決。
 - 画像のサイズが変更できない。
 - コンテキストメニューが使えないことがある。
 - メモリーのフル活用不可とメモリーリークのバグ。
- Adobe® Lightroom™ 用プラグインで、クイックコレクションが利用可能。注意: Adobe Lightroom カタログが Adobe Lightroom 指定のデフォルトの場所に入っていない状態で Adobe Lightroom 用プラグインを使おうとすると、クラッシュが起きます。
- 自動アップデートチェックの無効設定可能。
- Dx0 Optics Pro のヘルプメニューを使って、Dx0 モジュールの追加をする際のモジュールの不認識のバグを解決。
- ワコム製の一部タブレットとの互換性の問題を解決。
- サムネイル画像の黄色の三角の警告アイコン [この画像の補正に必要な情報が不足しています] が、入力後も消えない問題に関する一時的な修正。情報不足の問題は残りますが、このバージョンではこのアイコンを非表示にしています。 [ジオメトリ] の補正パレットで撮影距離を手動で入力することは可能です。この問題の最終的解決は、今後のリリースで行う予定です。
- 出力画像のファイル名への追加接尾辞に関する問題を解決。
- 圧縮 TIFF 形式が出力設定されている場合、バッチ処理の際、画像がエラーになるバグを解決。
- 入力画像のファイル名にダブルスペースが使われている場合、画像がエラーになるバグを解決。
- 壊れた ProfileList DLL が作成されるバグを解決。
- Canon EOS 20D と 350D (Rebel XT) のノイズ除去レベルの改善。
- プロジェクトウインドウでプロジェクト名の変更が可能。
- [編集] メニューの [プリファレンス] で、プロジェクト履歴 (OpticsProDbv5.opdb とサムネイルファイル) の保存場所の変更可能。
- GUI (グラフィカルユーザーインターフェイス: スクロールバー、スライダー等) の反応の改善。(プログレスバーのフィードバック。)
- 複数の画像の処理がスムーズに行えるようになった。
- NET 3.5 がインストールされているか自動的に確認し、そうでない場合はインストールします。
- 画面表示サポートの改善 (VMWare の Remote desktop)。注意: これは Dx0 Optics Pro 用にテスト/サポートされている環境ではなく、お勧めできません。

v5.0.4で既知の問題点

まだサポートされていない機能

- [補正] タブ: ハイライトクリッピング
- [補正] タブ: 元に戻す/やり直し
- [確認] タブ: スライドショー
- Adobe Photoshop CS2/3 用プラグイン (Adobe Lightroom 用プラグイン及びこれに関する連携ワークフローはご利用いただけます。)

既知の問題点

- ダウンロードマネージャを使って Dx0 モジュールを追加する際、Dx0 Optics Pro を終了してから Dx0 モジュールのダウンロードを開始してください。
- まれに、補正処理を開始しても実行されない。
- Dx0 Optics Pro v5.0.4 は XP-64 ビット と Vista-64 ビットの OS 環境では動作しない。
- まれに、〔全てのプロジェクトを削除〕コマンドを選択するとアプリケーションがクラッシュする。
- Konica と Sony の画像ファイルで、処理の後、EXIF 情報が失われる。
- インターフェイスで選択された言語の詳細マニュアルがインストールされていないと〔ローカルヘルプ〕コマンドが機能しない。
- 画像のコンテキストメニューの〔Open in Dx0 Optics Pro v5 (Dx0 Optics Pro v5 で開く)〕が機能しない。
- Dx0 Optics Pro の初回起動時は、デフォルトで英語のインターフェイスで起動するため、手動で他の言語に切り替える必要がある。
- 再インストールの際、プリファレンスの設定が変更されてしまう場合がある。
- 〔確認〕タブで〔補正前画像〕の表示が ICC プロファイルを反映しません。このため、〔編集〕メニューの〔プリファレンス〕で Adobe RGB を選択している場合、元画像と補正画像間の色の違いが実際のものとは違ってしまふことがあります。
- 当初予定しておりましたが、1Ds MKIII で撮影した画像は Optics Pro v5.0.4 では今のところサポートされていません。これは品質保証のためにとられた措置で、今後のアップデートのリリース時にサポートされる予定です。Canon EOS 1Ds MKIII の画像ファイルを開くことは可能ですが、画像処理に関してはサポートしていません。
- 〔補正〕タブで表示される補正前画像が補正後画像よりシャープに見えることがあります。これは表示の最適化のために起きます。補正前／補正後の画像を正しく表示するためには、ズーム比率を 100%か、それ以上に設定する必要があります。これは〔補正〕タブでのみ発生します。処理結果には影響ありません。したがって〔確認〕タブでは正しく表示されます。
- まれにデュアルモニターシステムで、Dx0 Optics Pro を表示するモニターがより高い画質のもので、これが主モニターとして設定されていない場合、表示の問題が起きます。
- Dx0 Optics Pro で処理できない画像からバーチャルコピーを作ってしまう。

その他

- 画像の回転に関して：Dx0 Optics Pro は、ソフトウェアが読み込んだ通りに画像を出力します。これにより、画像の回転に関して混乱が生じています。ポートレートモード（縦長）で撮影された画像は、カメラによって、風景モード（横長）の状態では保存されますが、ポートレートモードで表示されるように EXIF タグに指示されます。Dx0 Optics Pro はこの画像と EXIF タグを読み込み、サムネイル画像表示の前に正しく回転して表示します。補正処理後、Dx0 Optics Pro は出力画像ファイルに全く同じ方法で書き込みます。つまり風景モードで記録され、EXIF の回転表示のタグによりポートレートモードで表示されるように指示されます。この出力ファイル（これは元画像と同じ方法で記録）を EXIF の回転情報タグを読み込まないソフトウェアを使って開いた場合、風景モードで表示され、混乱が生じます。これは Windows Picture & Fax Viewer（Windows 画像と FAX ビューア）を使用した場合、またはウィンドウズ上のサムネイル画像で顕著です。ユーザーが画像を Dx0 Optics Pro で回転させた場合にも、似たような現象が起きます。これは出力画像ファイルの EXIF の回転タグだけに記録され、他の EXIF 回転タグを読み込まないソフトウェアで開いた場合、画像が正しく回転されません。
- 同じ画像に対して RAW と JPEG の両方の形式が設定され処理された場合、出力ファイル名の混同を避けるために RAW ファイルには、常に接尾辞「_RAW」が付加されます。（これは変更できません。）

重要：最新バージョン (V5.0.4) をダウンロードするには、以下の手順に従ってください。

1. まず Dx0 Optics Pro v5.0.x を閉じてください。
2. 次に <https://shop.dxo.com> にアクセスしてください。
3. 次に、購入タブからお客様アカウントセンターにログインしてください。
4. ダウンロードリンクとライセンス認証コードが表示されます。
5. ダウンロードリンクから「Dx0ODMSetup.exe」ファイルをダウンロードします。
6. Dx0ODMSetup.exe を起動し、インストーラの指示に従ってインストールを行ってください。